

コスタリカ駐日大使が当研究所施設をご見学

アルバロ・セデーニョ・モリナリ駐日コスタリカ大使が6月21日、コスタリカ大学のオスカル・ポラス・ロハス副学長とともにお越しになり、当研究所の研究施設をご見学されました。また、茂里理事長とも懇談されました。コスタリカ大使のご来所は今回が初めて。

茂里理事長からは当研究所の最新の研究動向や成果、今年度の重点研究などを説明、当研究所が誇る主要な研究施設についても紹介しました。

その後、アルバロ大使はオスカル副学長とともに実海域再現水槽や操船リスクシミュレータ、ディーゼルエンジンなどの施設をご見学されました。ご両人に随行した海洋環境評価系・環境影響評価研究グループの横井威研究員によると、アルバロ大使は「研究成果に大変興味をお持ちになるとともに、(海技研の)技術力、スキルなどを絶賛しておられた」とのことです。



アルバロ大使(左から2人目)を囲んで



実海域再現水槽で

「興山丸」の開発・建造に物流連の物流環境大賞

当研究所(SES支援センター)と宇部興産海運(株)、鉄道建設・運輸施設整備支援機構(JRTT)が共同で実施した「タンDEM・ハイブリッド方式スーパーエコシップ『興山丸』の開発・建造」が日本物流団体連合会(物流連)の今年度の物流環境大賞に選出されました。表彰式は6月26日、都内のホテルで行われ、当研究所からは運航計画技術研究センターの加納敏幸センター長が出席しました(写真右)。

大賞に選ばれた興山丸(同左)の開発・建造は、従来のエンジン駆動と電気ポッド推進器を組み合わせた、内航貨物船にとっては革新的といえるハイブリッド方式を採用し、省エネ船舶の開発、建造に成功しま



した。在来船に比べ、トンマイル当たりのCO2排出量を20%以上低減させ、さらに最適航路・船速を提案する航海支援システムを搭載したことにより、4%程度の省エネ効果につなげたことが評価されたものです。

物流連の物流環境大賞は、物流部門における環境保全の推進や環境意識の高揚等を図り、物流の健全な発展に貢献した団体・企業、または個人を表彰するために平成12年に創設されたもので、今回で13回目。

